

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 人間コミュニケーション学科

教授 宇賀 美奈子

1. 教育の責任

私は健康科学大学健康科学部に於いて、総合基礎科目である「基礎演習」「基礎数学演習」及び専門基礎科目の学部内共通科目である「スタディーズ系科目」を担当し、初年次並びに低学年時の学修の基礎となる科目を担当している。これらの科目では学生が大学で学ぶ上での基本的な学習スキルを修得することを通じて、自ら思考し主体的に学ぶことを体得できることに目的に教育に当たっている。

さらに福祉心理学科・人間コミュニケーション学科の専門科目として「医学概論」「福祉心理学基盤演習」を担当している。「医学概論」では文系科目が中心となる同学科のカリキュラム中で数少ない自然科学系の科目として、自然界における生物の仕組みを学ぶことを通して論理的に考察する機会となることを目指している。「福祉心理学基盤演習」においては低学年のキャリア教育や学習及び進路指導を通して、社会における自分自身の有り方を考えるための教育を行っている。

2022 年度

科目名	時期		受講者
基礎数学演習	1 年前期	必修	99 名
医学概論	1 年前期	必修	42 名
臨床人間学スタディーズ	2 年前期	選択必修	35 名
コミュニケーションスタディーズ	2 年前期	選択必修	33 名
福祉心理学基盤演習Ⅲ	2 年前期	必修	28 名
基礎演習Ⅱ	1 年後期	必修	13 名
生命学	1 年後期	選択	20 名
臨床社会学スタディーズ	2 年後期	選択必修	30 名
ジェンダースタディーズ	2 年後期	選択必修	27 名
福祉心理学基盤演習Ⅳ	2 年後期	必修	28 名

2021 年度

科目名	時期		受講者
基礎数学演習	1 年前期	必修	66 名
生理学実習	2 年前期	必修	103 名
臨床人間学スタディーズ	2 年前期	選択必修	56 名
福祉心理学基盤演習Ⅰ	2 年前期	必修	40 名
基礎数学演習	1 年後期	必修	46 名
生理学演習	2 年後期	必修	74 名
臨床社会学スタディーズ	2 年後期	選択必修	44 名
福祉心理学基盤演習Ⅱ	2 年後期	必修	40 名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 健康科学部 教務委員
- 2) 学生募集委員
- 3) 茨城県立医療大学 学外共同研究員

1)においては、学科内の教育カリキュラムの調整と教員への周知を行っている。国家資格取得関連カリキュラムの変更と、公認心理カリキュラムの導入に加え、学科名称変更など福祉心理学科・人間コミュニケーション学科内で複数のカリキュラムが進行する状況にあったため、学生の履修に問題がないように適切な履修指導が行えるような準備作業を実施している。さらに、年度と学期の切り替わり時に合わせ、転学部転学科を希望する学生の対応と履修指導を行っている。

2. 教育の理念・目的

健康科学大学は「豊かな人間力」「専門的な知識・技術力」「開かれた共創力」を兼ね備えた人材を育成することを使命としており、「様々な複合的問題に立ち向かうことができる問題解決能力を備えた人材」あるいは特定の専門性に依らず「横断的・融合的に理解・研究・実践しうる人材」の育成を目指している。

このような人材を育成するには、学習の場において単なる知識の受け渡しにとどまらず、学生が主体的に学習に取り組むことや自ら学習の対象について思考することが必要である。これにより問題解決能力、批判的思考力、コミュニケーション能力など、現実世界で役立つさまざまな能力を養成することができると考えられる。また、社会に貢献できる人材となるためには社会における自らの役割や立ち位置を意識する必要がある。そのためには自身と社会の係わりとその中における自らの価値観を意識できるようになる必要がある。

これらに基づき私の教育の理念は「学生が主体的に思考する場の提供」と、「学生が自らを軸とした価値観を構築できる機会の提供」であり、このような場や機会を通して、学生に主体的な思考を促し、自らの価値観に対する考察を促すことが目的である。

3. 教育の方法

・問題解決型授業

2年次前後期に実施される「スタディーズ系」と呼ばれる4科目は、PBL (Problem Based Learning:問題解決型学習)の実践を行うための科目である。2021年度及び2022

年度の4科目中3科目は分担教員として、2022年度「ジェンダースタディーズ」は科目代表教員として科目運営を行った。これらの科目はそれぞれの科目に沿ったテーマを提供し、そのテーマに沿ってグループで問題解決に取り組み発表するという形態をとる。教員は学生の思考を誘導することなく、アドバイスを求められた場合も学生の自主的な思考を促すように取り組み方のヒントのみを与えるような指導を行う。

- ・学生の理解状況に応じた学習資料の作成

「基礎数学演習」のような演習授業では学生の理解度に応じた授業資料・演習課題を作製している。場合によってはシラバスの進行を調整し、演習の機会を増やすなどして、クラス全体での理解度を上げる様に調整している。

- ・時間割外の補習の実施

学生のバックグラウンドによって基礎学力に差がある場合は、学生の要望に応じ質問に応じるだけでなく補習授業を実施している。

4. 教育の成果・評価

各学期末の授業評価アンケートを活用して、授業内容の反省点を振り返り、次年度のシラバスや授業内容に活かしている。

- ・基礎数学演習

わかりやすい、個別の説明が丁寧であるという高評価のコメントがある一方で、期待していたものと違ったという指摘もあった。高評価のコメントについては、演習時に個人の不得意分野を明確にし、基礎からの復習を重視して指導を行った結果であると判断できる。また、期待していたものではなかったというコメントは高学力の学生によるものと考えられる。履修者全体の理解度を上げることが重視すると、残念ながら理解度の高い学生が授業への関心を持ちにくくなることが想定される。習熟度別クラスを導入し、対応するよう心がけているが、それでも全員の学力レベルに細かく調整することは困難であり、今後の課題であると考えられる。

- ・生命学

生命学は生命というテーマに対して、自然科学の観点及び人文学の観点の両方の視点からとらえるという、総合基礎科目の特徴的な科目である。この科目ではテーマを決めそれぞれに2つの観点からのトピックスを紹介し、それらを踏まえてグループで意見をまとめるという参加型の授業を実施した。この科目では、学生からグループ活動よりも個人での評価配分を高くしてほしいという意見があった。各人が多様な考え方をすることを知ってもらうためにグループワークを導入したが、オンラインでのグループ

での活動に慣れていないため、授業の参加態度に差が出たことが原因として考えられる。1 年次後期という時期では、学生のオンライン授業に対する習熟度と総合基礎科目に対する関心とで個人差が出ることに十分対応できていなかった点は反省すべきととらえている。次年度は対面授業での開講が決定しているため、これらの欠点を改善した取り組みを検討している。

5. 今後の目標

短期目標：授業評価内容の改善

リハビリテーション学科に対する「基礎数学演習」及び人間コミュニケーション学科に対する「医学概論」の講義では、バックグラウンドの違いによる理解力の差が大きい。前提知識の有無にかかわらず、関心の持てるトピックの選定を行うと同時に、既に該当分野の知識のある学生に対してもステップアップにつながる授業構成となるよう改善を目指す。

長期目標：学習分野に対する関心の偏りをなくすような科目の提供

大学での学びは、専門技術を身に着けるだけでなく、幅広い教養を得る場でもある。総合基礎科目・専門基礎科目について、必要だから受講するというのではなく広く学びを得たいと思わせるような科目の提供を目指す。